映画「炎上」は、性暴力、薬物、家庭内暴力等のテーマを物語の中で描いております。
しかし、その表現に関し、決してこれらの行為を正当化するものではないという立場を強く申し上げます。
性暴力被害者や薬物依存などで苦しんでおられる方々が、適切な法的手続きや医療・心理ケアを受けられる社会環境の整備を真摯に願っております。

本作には性被害、薬物、児童虐待、自死の描写が含まれます。鑑賞をご予定の方はご注意ください。
本作は、インティマシーコーディネーター監修のもと制作されており、未成年者を含めた出演者全てに配慮して制作されております。

本サイトに掲載されている脚本（以下「本作品」）に関する著作権その他一切の権利は、作者に帰属します。
利用者は、著作権法その他の法令により認められる範囲を超えて、本作品を無断で使用（複製、転載、改変、配布、販売、上演、上映、公衆送信、翻案等を含みますが、これらに限られません）することはできません。
本作品の利用を希望される場合は、事前に許諾を得るものとします。
違反が確認された場合には、法的措置を講じることがあります。

(C) 2026映画「炎上」製作委員会

1

タイトル

楽曲が鳴り響く。
パチパチと燃える音が聞こえる。
誰かの深呼吸する音が聞こえる。
それは、次のシーンの小林の呼吸音である。

T：炎上

2

トー横広場／夜

燃える炎の音。
歌舞伎町がピンク色の炎に包まれている。
小林は、ピンクでラメラメの炎に包まれている。この物語は小林のナレーションで語られる。

小林オフ「歌舞伎町炎上。死者数不明。犯人は十代の女性。住所

(C) 2026映画「炎上」製作委員会

不定無職。結末は、もう知っての通り。ねぇ、あなたは知りたい？　どうして私が火をつけたのか」

小林は深く呼吸をしている。

T：第1章　私はいかにしてト

ー横広場に辿り着いたのか

テキストは、スマホで書いた文字である。指でフリックする音が聞こえる。

3

タクシー会社の駐車場／日中／冬

小林オフ「これは、幼い頃の私の記憶。ママとパパが歌っている景色」

タクシー会社の敷地内である。父はタクシー運転手で、彼はあるカルト宗教の信者。この会社には信者が多く、彼らのための互助会イベントが行われてい

(C) 2026映画「炎上」製作委員会

る。社員たちやその家族が二十人ほど集まって合唱をしている。その中に、父と母がいる。彼らは以下の歌詞の合唱曲を歌っている。

♪
世界はキラめいて　光　光
影がひとつもない　世界　世界
世界はキラめいて　光　光
影がひとつもない　世界　世界

ここは　光　だけの世界
ここは　光　だけの世界
目を閉じて　祈れば　目を閉じて　祈れば
世界はキラめいて　光

きらきらきらり　きらきらきらり
きらきらきらり　きらきらきらり

(C) 2026映画「炎上」製作委員会

きらきらきらり　きらきらきらり
きらきらきらり　きらきらきらり

その姿を見ている7歳の小林。横には4歳の妹がいて、姉妹は手を繋いでいる。

小林オフ「影がひとつもない世界、」

幼い小林「そ、そそそんなもんあるかい」

小林は目線を下ろす。そこには自分の影がある。

小林オフ「子供ながらにそう思ったけど、親の言うことは絶対だった。パパ曰く、私たちはよく間違うので、お仕置きを受けました」

4

小林の家　居間／日中／同日

団地の狭い部屋である。そこで彼らは暮らしている。
父は椅子に座っている。幼い小林は宿題をしている。
妹は遊んでいる。母は家事をしている。

(C) 2026映画「炎上」製作委員会

父　「樹理恵。今、なんていった？」
幼い小林「な、な、なにも、、」
父　「今なんて言ったって聞いたんだ」
小林オフ「この頃から私は強い吃音で、」
幼い小林「ご、ご、ご、ごごめん、な、な、な、なさい」
父　「ちゃんと謝りなさい！」
幼い小林「ご、ご、ごごごめん、、な、な、な、なななななさい」
父　「心から謝ればそんなふうにならない。心が汚れてるからそうなるんだ」
父は立ち上がる。
父　「こっちきなさい。二人とも」
父　「連帯責任だ。背中を出しなさい」
小林オフ「そのせいで妹も連帯責任で、お仕置きされました」
父は、姉妹をベルトで叩く。
×　×　×
風呂場にて。幼い小林と妹は、肌着をまくって自分

(C) 2026映画「炎上」製作委員会

達の背中を見せ合う。
二人の背中はあざだらけである。
幼い小林「ご、ご、ごごごめんね」

5

小林の家　和室／夜

動物図鑑が読みかけで、開いている。ヒョウが書いてあるページだ。その模様はまるであざだらけの姉妹を彷彿とさせる。
襖の向こうで夫婦喧嘩をしている。テレビは情報で穢れるからという理由でガムテープが貼ってある。父と母が言い合いをする。母は物を投げつけられているようだ。「や、や、やめてよ！　い、い、痛いです！　や、や、やめてください！」などと母の声が聞こえる。その様子が、襖の隙間から少しだけ見える。
幼い小林と妹は布団の中に入っている。二人は小声

(C) 2026映画「炎上」製作委員会

で会話をする。

幼い小林「か、か、神様って、ほ、本当にいると、お、おお思う？」

妹　「え？　いるでしょ」

幼い小林は笑って祈りだす。

幼い小林「じゃ、じゃあ祈ろう。パ、パパが死にますように」

妹　「パパが死にますように。パパが死にますように」

カメラは祈る二人を映す。祈る二人はカットバック中に10年後（現在）に成長している。

T：10年後

小　林「パ、パパが死にますように」

妹　「パパが死にますように。パパが死にますように」

すると、襖の奥の居間から父が倒れる音が聞こえる。

母　「あ、あ、あなた！」

姉妹は起きあがり、居間に出る。そこには父親が倒れている。

(C) 2026映画「炎上」製作委員会

小林オフ「10年祈り続けてたら、神様が願いを叶えてくれた。神様はやっぱりいるんだろうか、いたとしたら仕事おせえ」

6

火葬場／春

燃える棺桶。

真っ暗な空間に棺桶がポツンと置かれていて、それが燃え始める。

その棺桶はまるでゲーミングCGのようにチープなものである。

母、妹、小林は祈る。

小林「天は我らを永遠（とわ）にまなざさん

妹　ミクニのきたるべき時に

母　地が裂け鐘を鳴らすだろう

全ては父と母の名のもとに

悪しき我らを救い給え」

小林、妹、母の三人は、焼却炉の扉をぼんやりと見

(C) 2026映画「炎上」製作委員会

つめている。三人は喪服を着ている。小林は誰にも聞こえない小さな声で呟く。

小　林「（キレイだ）」

母　「なんか言った？」

小林は首を振る。

母　「いくよ」

妹と母は先に立ち去る。小林は取り残される。

ベートーヴェンの曲が館内ではかかっている。

7

火葬場前／日中

火葬場の外にある駐車場を静かに歩く姉妹と母親。

小林が一番後ろで、少し二人から距離がある。

母　「遅い！」

母たちは軽自動車に乗り込む。

8

タクシー会社／夕方／春

(C) 2026映画「炎上」製作委員会

蟻の隊列が地面を歩いている。一匹、その隊列から外れる蟻がいる。
10年前と変わらずに、仲間たちと合唱している母。
違うのはそこに父がいないこと、それと合唱の列の中に小林と妹もいることである。

♪
世界はキラめいて　光　光
影がひとつもない　世界　世界
世界はキラめいて　光　光
影がひとつもない　世界　世界

ここは　光　だけの世界
ここは　光　だけの世界
目を閉じて　祈れば　目を閉じて　祈れば
世界はキラめいて　光

(C) 2026映画「炎上」製作委員会

きらきらきらり　きらきらきらり
きらきらきらり　きらきらきらり
きらきらきらり　きらきらきらり
きらきらきらり　きらきらきらり

みんな歌うことに集中している。小林は後退りする。
小林は、母にバレないように静かにその列から離れる。彼女はそのまま走り出す。妹は振り返る。
小林オフ「ごめんね。あなただけ残して。それだけが心残りだった。これからは、きっと、二人分、殴られるのだろう」
小林は走る。後ろをチラチラと気にしながら走っていく。妹が気がかりなのだろう。タクシー会社はどんどんと遠ざかっていく。

9

Xの画面　どこか／夜

小林は、スマホをいじっている。

(C) 2026映画「炎上」製作委員会

小林オフ「私は、一番、父が嫌がる場所へ行こう。そう決めていたんだと思う」

彼女のスマホの画面には、Xが映されている。

そこには「ＫＡＭＩくん」という人物のアカウントがある。そこにはプロフィールに「不幸な子たちを助けます。ＫＡＭＩ待ち？　トー横広場で24時間待ってる。ＤＭ解放中。」と書かれている。

彼女はＫＡＭＩくんにＤＭを送る。

「今日もトー横いますか？」と小林が送ると、

「いるよ。おいで。」と返事がくる。

10

歌舞伎町／夜

小林は、歌舞伎町に歩いて入っていく。彼女は、あたりをキョロキョロと見回しながら、不安を感じながら歩いている。

コンカフェの女性たちが立っていて、異様な光景で

(C) 2026映画「炎上」製作委員会

ある。

×

×

×

小林は、さらに奥へと進んでいく。そこには広場があり、それこそがトー横広場である。そこには若者たちがたむろしている。小林は、一番近くのグループに近づき、話しかける。

小　林「か、か、かかかかＫＡＭＩさん、いいいい、いますか？」

グループの手前にいたリスが振り返り、返事をする。

(C) 2026映画「炎上」製作委員会

リス「は？」
わら「なになに、なんて？」
小林「かかかか、ＫＡＭＩさんに、あああああああ会いたいです」
リス「ＫＡＭＩくん？　ＫＡＭＩくんに会いにきたの？」
こころ「うける」
リス「じぶん、名前は？」
小林「じゅ、じゅ、じゅじゅじゅじゅじゅ、、、じゅ、じゅ」

小林は緊張して自分の名前をうまく言うことができない。
彼女の名前は「じゅりえ」であるが、吃音によって「じゅじゅ」と聞こえてしまった。

11

ビジネスホテルの一室／日中／インタビュー

リスたちトー横キッズたちがカメラに向かって喋っている。

(C) 2026映画「炎上」製作委員会

リス「てことで、じゅじゅ、って名前に決まりました。本名なんてここじゃどうだっていいんで」

こころ「うちのグループはー、誰だって入れまーす。グループに入るためのぉ、資格なんて要りませーん」

Ora「いや、あるよ、資格。虚無があるかどうか。虚無がある、ってておかしい？　ドーナツに穴があるか？　みたいな」

ハク「禅問答だわなw」

リス「まぁトー横は、そういう、穴だらけの、子どもたちの児童館みたいなもんなんすわ。私営の児童館」

12

トー横広場／夜

ライオン像に寄りかかってリスと小林は話している。

リス「ここのメンバーを紹介するね」

リスのナレーションに合わせて、キッズたちのそれぞれの姿が映し出される。主にトー横広場でのものだが、中には別の日／場所のものもインサートされ

(C) 2026映画「炎上」製作委員会

る。

×　　×　　×

同じ時間軸の夜のトー横広場にて。Ｏｒａは歯を磨いている。

リスのオフ「あの眼帯はＯｒａ。暇さえあれば、歯磨いてるの。何食べてもきしょいんだって」

×　　×　　×

日中のビジネスホテルにて。マイマイがダンスを踊っている。

リスのオフ「マイマイは、中2。めちゃくちゃ踊れる。みんな尊敬してる」

×　　×　　×

日中のトー横広場にて。ハクが座っておしっこをしている。ニコニコ笑ってピースサインをする。

リスのオフ「ハクちゃんは、おしっこ近い。別名、膀胱おちょこね」

×　　×　　×

(C) 2026映画「炎上」製作委員会

日中のビルの階段にて。こころが号泣しながら、うますぎる～と言ってフライドチキンを食べている。
メイクが崩れている。

リスのオフ「こころは、泣き虫。悲しい、嬉しい、おいしい、ムカつく、全ての感情で泣く」

×　　×　　×

日中のビジネスホテルにて。ベッドに横たわって笑うわら。マイマイとハクとこころは、わらのお腹に集まる。

リスのオフ「でっかいのはわら。わらに触ると、どんな傷も癒える。白魔道士だわな」

×　　×　　×

日中のトー横広場。鳥ちゃんはイヤホンをしている。
カメラに向かって振り返り、中指を立てる。

リスのオフ「あの坊主は、鳥ちゃん。もう誰にもレイプされないように、坊主にしたんだけどさ、結局ね、そういうヘキの男もいるから、逃げ場がないって、こないだぶち切れ

(C) 2026映画「炎上」製作委員会

てた」

×　×　×

夜のトー横広場。阿Ｑがマスミを乗せた車椅子を押している。仲良く喋っている。

リスのオフ「で、あれが阿Ｑとマスミさん。阿Ｑはめっちゃシャイ、声小さいウケる。マスミさんは昔、ミス東京だったって言ってた。一応みんな信じてあげてる」

×　×　×

昼のトー横広場。アニマルギャルズが、長縄をしている。そして、その後に、お菓子を食い散らかしている。

リスのオフ「あのこたちは、アニマルギャルズ。全員小学生。脳みそ家畜レベルだからアニマルがお似合い」

×　×　×

昼のトー横広場にて。スマホがブルーシートの上に置かれている。画面はＳＮＳ。そこに炎のスタンプがポコポコと受信される。

(C) 2026映画「炎上」製作委員会

リスのオフ「ここの子は、みんなよく炎のスタンプを使う。最悪～とかやば～って意味ね。でもそう感じられるってことは生きてる証拠っしょ、って感じのバイブスこもってんだわ」

×　×　×

夜のトー横広場、元の会話の時間軸に戻る。小林とリスが会話をしている。

リス「で、ぼくはリス。リスカの数が世界一多いから、リス。ここの最古参。10年くらいいるんじゃないかな。最終学歴幼稚園。幼卒。どれほど～」

リスはリストカットの跡を自慢げに見せてニコニコと笑う。

フルフェイスのヘルメットを被った男が広場の隅で踊っている。彼を指差す小林。

小林「あ、あれは？」

リス「あれはね、フルフェイス。あーあ、また狂っちゃってる。近づかない方がいいよ」

(C) 2026映画「炎上」製作委員会

フルフェイスが別のグループの荷物から奪った大きな水鉄砲を構えて、近づいてくる。リスたちは焦る。

小林「え」

リス「やば」

フルフェイスが水鉄砲を噴射する。中から透明の液体が噴射される。

リス「逃げろ逃げろ、濡れる！」

リスたちは走って逃げる。阿Qは、車椅子のマスミさんを気遣ってゆっくり移動していく。

Ora「ベタベタする！」

わら「やば、テキーラじゃね？」

トー横広場に集まる若者たちが移動していく。フルフェイスは彼らを追いかける。

スローモーションで移動していく様が映される。皆、楽しそうで、その表情からここが彼らのリラックスできる場所であることがわかる。小林も自然と笑っている。

(C) 2026映画「炎上」製作委員会

小林オフ「こんな幸せな瞬間は、生きてて一度もなかったから。
私はここで生きようと、思った」

13

ビジネスホテル／夜

ビジネスホテルの一室に集まっている若者たち。
みんながここで寝泊まりしているので、他の服が干してある。
リス、Ｏｒａ、ハク、こころ、鳥ちゃん、わら、マイマイ。
わらは踊りの振り付けの練習をしている。
鳥ちゃんはイヤホンをして、動画をみている。
ハク、こころ、マイマイはリズム遊び「感情」をしている。
リスは化粧台に足を上げて、自分の服の匂いを嗅ぐ。
Ｏｒａは歯磨きをしている。
小林は隅に座って、緊張している。

(C) 2026映画「炎上」製作委員会

リス「まじ服テキーラくさいんだけど。うざー。嗅いで」
Ora「おえ。風呂キャン何日め？」
リス「10～。こうばしいしょ？」
Ora「はいはい公害」
リス「じゅじゅも、かぐ？」
Ora「やめときな」
　リスは化粧台に足を上げて、寝っ転がっていて、わらの踊りを見て声を掛ける。
リス「ねー何それ？」
わら「え？　しらんのおっそ。じじいじゃん」
リス「は？　じじいじゃないし。教えてよ」
　わらは、踊りをリスに教える。
　こころ、マイマイ、ハクは手遊びをしている。この手遊びの声はこのシーンの初めから聞こえる。
3人「悲しみ、悲しみ、えんえん
　憎しみ、憎しみ、ぷんぷん
　うれしみ、うれしみ、ヤッホイ！

(C) 2026映画「炎上」製作委員会

虚無み、虚無み、しーん
虚無み、虚無み、しーん
虚無み、虚無み、しーん
待って、虚無顔やばい　虚無顔て（と、続ける）」

こころ「てか、やばい蒸れる。じゅじゅちゃん。窓開けて。じゅじゅちゃーん。そこの窓」

小林「あ、は、は、はい」

窓は自殺防止のために、ロックされていて、少ししか開かない。

こころ「あ、そこまでしか開かないよ。みんな飛び降りちゃうから」

ハク「感謝だ、感謝だ。ありがて～」

そこに大柄の男「ＫＡＭＩ」が入ってくる。彼はニコニコと柔和な表情だ。みんな嬉しそうにする。

リス「あ、ＫＡＭＩく～ん。これ、じゅじゅちゃん」

ＫＡＭＩは小林の前に立つ。

ＫＡＭＩ「ういーす。あ、君だね？　よろしく」

(C) 2026映画「炎上」製作委員会

小　林「、、、よ、、、よ、、、よろしく、、おおおお
　　お願いします」
　　ＫＡＭＩは突然ニコッと笑い、話し始める。
ＫＡＭＩ「緊張しなくていいよ。僕、上条って言います。みんな
　が安心できるように、ここにいる。まー守り神みたいな
　もんか。だから、神、って覚えてくれたらいいよ。本当
　は、上条のＫＡＭＩなんだけど。あっはっはっは！」
　　ＫＡＭＩは大袈裟に笑う。
ＫＡＭＩ「ここは君の家だと思っていいからね」
　　小林は、頷く。ドキッとする。
ＫＡＭＩ「じゃ、新メンバー入ったってことで、これ、僕からプ
　　レゼント～」
みんな「イェーイ」
　　ＫＡＭＩは大きなサイズの紙パックのいちごみるく
　に、何かを入れて、リスたちに渡す。
Ｏｒａ「みて、ほら、可愛いでしょ」
小　林「か、、、かかかかわいい」

(C) 2026映画「炎上」製作委員会

Ｏｒａはパックの口を開けて中身を見せる。
そこには水色のケミカルな色の液体が入っている。
これを飲むとオーバードーズするのだろう。
小林を囲んで、こころ、マイマイ、Ｏｒａはいちご
ミルクを飲んでパキッている。
Ｏｒａたちはベロを出す。そのベロは真っ青である。
ハクはトイレに行ってしまった。
ＫＡＭＩはリスの腕を掴んで説教をする。

ＫＡＭＩ「あ！　また増やしたのかよ」
リ　ス「うん、増やした。死にたいから」
ＫＡＭＩ「全くもー。誰かペン持ってる人～」

リスの腕に入った10本のリストカットの傷跡に、Ｋ
ＡＭＩはキラキラのペンで線を足す。縦に長く2本
足して、梯子のような状態になる。その下に棒人間
も書く。

ＫＡＭＩ「はい、おまじない」
リ　ス「なにこれ」

(C) 2026映画「炎上」製作委員会

ＫＡＭＩ「はしご」
リ　ス「どこ繋がってんの？」
ＫＡＭＩ「天国」
リ　ス「結局、死ぬんじゃん」
ＫＡＭＩ「あーそっか。あっはっはっはっは！」

ハクは、ユニットバスの隅に死んだゴキブリがいるのに気づく。

ハ　ク「あ。ゴキブリ、死んでまーす」

ゴキブリの死骸を見に集まるキッズたち。
しかし、皆口々にゴキブリの文句を言う。
「無理無理無理無理！　やばい。キッショ～。私たちでもそれは無理。退散退散。誰か捨てて。きしょい」など。
キッズたちは文句を言って、また部屋に戻る。
小林はしゃがみ込み、突然祈りの言葉を唱え始める。
ＫＡＭＩはじっと祈る小林を見ている。

小　林「天は我らを永遠（とわ）にまなざさん

(C) 2026映画「炎上」製作委員会

ミクニのきたるべき時に
地が裂け鐘を鳴らすだろう
全ては父と母の名のもとに
悪しき我らを救い給え」

ＫＡＭＩ「何それ」

小　林「い、い、、いいいいのり、です」

ＫＡＭＩ「ふーん、それは吃(ども)らないんだね」

小　林「ちちちち、ちいさいときから、とととととなえてるから」

小林の背中からチラリとあざが見える。

ＫＡＭＩはそれを見て、彼女のバックグラウンドを察する。

小林オフ「結局、そのゴキブリは、生きていて、どっかに行った。
足がもげてたくせに、内臓出てたくせに」

14

ビル屋上／夜

屋上の真ん中でＫＡＭＩはギターの弾き語りをして

(C) 2026映画「炎上」製作委員会

いる。
その姿はまるで教祖のようだ。

♪

とても不器用だった　生まれてよかったね
体の一部が不自由だった　生まれてよかったね
みんなにいじめられた　生まれてよかったね
性同一障害だった　生まれてよかったね
親が人殺しだった　生まれてよかったね
親に捨てられた　生まれてよかったね
死んだ方がマシだと思った　生まれてよかったね

生まれて　よかったね
生まれて　よかったね
生まれて　よかったね！
生まれて　よかったね！

(C) 2026映画「炎上」製作委員会

ラザニアが　今日は　うまく焼けたよ
ラザニアが　なんだか今日は　美味しくできたよ

生まれて　よかったね
生まれて　よかったな！

この歌を聴きながら、キッズたちはそれぞれ泣いている。
小林もまた、その一人であり、彼女は泣きながらその曲を聴いている。
その小林の涙に気づいて、Ｏｒａが話しかける。

Ｏｒａ「はい、これあげる」
小　林「え？」
Ｏｒａ「これもあげる。さっきね、ドンキに貰ったの」
小　林「ドンキに、もらった？」
Ｏｒａ「そう。もらった」

Ｏｒａはニコリと笑う。キーホルダーや飴を小林に

(C) 2026映画「炎上」製作委員会

あげる。

Ｏｒａ「ここはね、どんな子だっていていいんよ。バカな子も、狂った子も、ダメな子も。みんな、ここにいていいんよ」

Ｏｒａは小さく微笑む。

15

道／夜

アスファルトの地面がキラキラと光っている。そこに寝っ転がるリス、Ｏｒａ、ハク、わら、こころ。

リス「キラキラのアスファルトだ～！　イェーイ」

それを立って眺める小林。

リス「じゅじゅ～！　ちょっと飲みが足りてないんじゃないの～？」

リスは小林に紙パックを手渡す。

みんな「ほい、一気！　一気！　一気！　一気！」

小林は一気にそれを飲み干す。小林は意識が遠のく。

アスファルトが、まるでキラキラとひかる夜空のよ

(C) 2026映画「炎上」製作委員会

うである。

16

小林の家　和室～居間　夢

幼い頃の小林の部屋で、現在の小林が眠っている。
小林は目が覚める。
襖を開けて居間に移動する小林。
そこでは過去の幼い小林と妹が過去の父に暴力を振るわれているところである。彼らは皆止まっており、現在の小林だけが動いている。
過去の父を止めようと、現在の小林は声をかける。

小　林「や、や、やめて」

止まっている父の首から上だけが動き、小林の方を向く。

ギギギギギ。

父　「連帯責任だよ。お前の心が汚(けが)れてるから、連帯責任だよ」

小　林「ご、ご、ご、ごめんなさい」

(C) 2026映画「炎上」製作委員会

小林の後ろに、現在の妹が突然現れる。

妹「お姉ちゃん。なんで逃げたの？　謝って」

妹は服をたくし上げ、背中についた虐待の痕を見せる。

小林「ご、ご、ご、ごごごご、」

父「心から謝ればそんなふうにならない！　心が汚(けが)れてるからそうなってるんだ！」

現在の小林は、倒れ、寝転び、痙攣する。

17　黒み

T：第2章　オーバードーズガールドントダイ

18　病院／日中

(C) 2026映画「炎上」製作委員会

はっと目が覚めると小林は病院にいる。
警察官・静岡が立って彼女を見つめている。
静　岡「大丈夫？　あなた、こうなってたんですよ」
静岡は小林のスマホで映像を見せる。その映像の中にはオーバードーズで泡を吹いて白目を剥き痙攣している小林が映っている。周りのトー横メンバーは爆笑している。静岡は優しく笑う。
静　岡「さ、行こうか。準備して」
小　林「、、、」
静　岡「いくよ」
小林は実家に連れて帰されると誤解して、拒否する。
小　林「い、いいいい嫌です。か、か、かかか帰りたく、ない！」
静　岡「大丈夫。安全なところだよ」

19	20
欠　番	一時保護所

(C) 2026映画「炎上」製作委員会

T：一時保護所

建物外観のタイムラプス。数日が経過したことがわかる。

カメラがひくと、建物の模型だったことがわかる。

その模型を、退屈そうに小林は眺めている。

小林オフ「それから私は、一時保護所、というなんだか曖昧な名前の場所に入れられました。そこには40人ほどの10代の若者がいました。小さいのは10歳くらいだったと思います。私はここにいつまでいるのか？　いつ外に出られるのか？　と職員に聞いても、そんなの俺たちはわからない、と答えられました」

21

一時保護所／一角／日中

洗濯物が干してある一角。そこで小林は佇んでいる。

上を見上げると、日が差している。その横の廊下を、

(C) 2026映画「炎上」製作委員会

児童や職員が通り過ぎる。

22

一時保護所／食堂／日中

足を引きずって食堂に入ってくる三ツ葉。

×　　×　　×

食事の配膳を受け取る小林。その列の前には、三ツ葉がいる。

三ツ葉は配膳を受け取って、足を引きずりながら、座席に向かって歩く。

小林はそれを目で追う。座った三ツ葉に近づき、小林は声を掛ける。

小　林「あ、あ、あああの」

三ツ葉「何？」

小　林「え、えええっと、ここここここ、ここのせき、、、、すすす座っても、いいいいい」

三ツ葉「はいはい、なるほど。吃音だ。吃音だから、障害の私に、

(C) 2026映画「炎上」製作委員会

声かけたんだ。他にたくさんいるのに。つまりあなたは自分が社会から見下されると思ってて、その同レベルの人間として、私を選んだってことだよね」

小　林「ち、ち、違います」

三ツ葉「何が、違うか、言ってみてよ」

小　林「、、、、、」

三ツ葉「ほら言えない」

小　林「ごごごごご、ごめんなさい」

小林は謝り、別の席を探すために、向きを変える。

しかし、三ツ葉は引き止める。

三ツ葉「やっぱ嘘。同レベ同士、仲良くしよう」

三ツ葉は小林に握手を求めるため、手を出す。

T：三ツ葉

小林オフ「彼女は、三ツ葉、といいます。口が悪かったけど、居心地が良くて、私は彼女と仲良くなりました」

(C) 2026映画「炎上」製作委員会

23

一時保護所／部屋／日中

そこは相部屋で2段ベッドが4つ配置してある。天井には備え付けのスピーカーがあってベートーヴェンがかかっている。

先ほどのシーン最後に手を出した三ツ葉の手を掴むように、二段ベッドの上に登った小林が、足の悪い三ツ葉を二段目に上げてあげるために、彼女の手を掴む。そこは小林のベッドである。二人は一つのベッドで上を向いて話している。

三ツ葉「ベートーヴェンかかってるでしょ。火葬場とか、ゴミ処理場とか、こことか。ベートーヴェンかけておけば、汚れとか、どうしようもなさとかが相殺されるって思ってんだよ、大人は。クソだね。大人は全員クソ」

小　林「全員？」

三ツ葉「そうだよ、全員」

(C) 2026映画「炎上」製作委員会

24

一時保護所／一角／日中

食堂前の一角。二人は仲良くじゃれあっている。

小林オフ「私は彼女と二ヶ月間、ずっと一緒にいました。多分、彼女は、私に初めてできた、親友です」

25

一時保護所／部屋／一ヶ月後

二段ベッドから唾を垂らす小林と三ツ葉。

床に溜まる唾が、何の形に見えるか？　を考える遊びをしている。

小　林「う、うさぎ」

三ツ葉「ハート」

小　林「えー、ど、どこがハートだよ」

三ツ葉「どこからどうみてもハートでしょｗ」

お互いの頬にキスをする二人。

(C) 2026映画「炎上」製作委員会

26

黒み

T：第3章　光

両親が歌っていた合唱曲がかかっている。

♪

世界はキラめいて　光　光
影がひとつもない　世界　世界
世界はキラめいて　光　光
影がひとつもない　世界　世界

ここは　光　だけの世界
ここは　光　だけの世界
目を閉じて　祈れば　目を閉じて　祈れば
世界はキラめいて　光

(C) 2026映画「炎上」製作委員会

きららきららきらり　きららきらり
きららきららきらり　きららきらり
きららきららきらり　きららきらり
きららきららきらり　きららきらり

27

一時保護所／建物前／日中

ドアが勢いよく開く。
小林は自転車置き場から、鍵のついている自転車を探す。
三ツ葉は急いで門を開ける。
小　林「あった！」
三ツ葉「こっちも開いたよ～」
小林は三ツ葉を自転車の後ろに乗るように促す。
小　林「乗って！」
小林オフ「私たちは夕食の準備の隙を見計らって、施設から逃げました」

(C) 2026映画「炎上」製作委員会

28　道／夜

小林と三ツ葉は二人乗りをしている。小林が漕いで、足の不自由な三ツ葉は後ろに乗っている。

三ツ葉「脱獄みたーい！」

小　林「脱獄みたーーーーい！」

小林は嬉しそうに叫ぶ。

小林オフ「こんな時に限って、父と母が歌っていた大嫌いな歌が頭の中で流れていました」

自転車のタイヤのスポークには、カラフルなライトが付いていて、それがキラキラと夜の闇の中で光っている。

小林オフ「世界はキラめいて　影がひとつもない　そんなわけ、そんなわけ、そんなわけ、、、、」

29　カラオケ／日中／インタビュー

(C) 2026映画「炎上」製作委員会

T：三ツ葉葉子

三ツ葉「えっと、私は、7歳の頃、変態が、公園に仕掛けた獣用の罠にひっかかって、そこからこうなりました。こうってのは、足ね。足に障害残って、普通に歩けないっていう。で、そこから、世界全てを呪うことにしてて、呪うって言ってもさ、私の不幸をね、伝染させるって作業ね。一人ずつ、一人ずつ、不幸にしていくって感じ。コツコツ真面目にやってんの。褒めて」

30

公園／10年前／夕方

夕焼け小焼けのチャイムが聞こえる。

獣用罠が仕掛けられている。

空は気持ち悪い色の夕方の空である。

走る小さな女の子（7歳の頃の三ツ葉）が転ぶ。彼女は罠にかかってしまったのだろう。

(C) 2026映画「炎上」製作委員会

31

トー横広場／夕方／日替わり

小林と三ツ葉は、トー横広場に帰ってくる。二人は施設の時の服のままである。

アニマルギャルズは「ＫＡＢＵＫＩＣＨＯ」の看板を作っている。他のアニマルギャルズは長縄跳びをしていることで、幼さを再実感させられるだろう。小林と三ツ葉に、トー横広場のメンバーたちが「おかえり」と声をかける。「おかえり」「おかえり」「おかえり」

「あ、おかえりー」「え、そこ二人が一緒にいるの意外」などみんな口々に言い、二人に駆け寄って抱きつく。

リ　ス「おかえり」

小　林「た、ただいま」

この場所は、小林にとって「ただいま」と言える場

(C) 2026映画「炎上」製作委員会

所になったのである。彼女にとって、それは実家では言えなかったセリフである。

32

ビジホ／夜

ＫＡＭＩはソファに座ってスマホをいじっている。
机の上にはスマホがたくさん並べられている。
ＫＡＭＩ「三ツ葉久しぶりだねー。てか、そこがつながったか～。感慨ぶけ～」
ＫＡＭＩはグリルを歯にはめている。
ＫＡＭＩ「よーし、ここから、好きなやつ持っていっていいよ」
三ツ葉「ＫＡＭＩくん、ありがとー」
ＫＡＭＩ「警察に取られちゃったんでしょ？　ないと困るでしょ？　もう捕まっちゃダメだよ。あいつら悪魔だから。これからは、自立しなきゃね」
ＫＡＭＩはニコッと笑う。キラキラのグリルが光る。

(C) 2026映画「炎上」製作委員会

33

西武新宿線新宿駅前／日中／日替わり

小　林「ほ、ほし？」

三ツ葉「そう、星。星3、3万ってこと」

三ツ葉のスマホの画面に「星いくつ？」とメッセージが大写しにされる。

それはサラリーマン関口から三ツ葉に送ったメッセージである。

三ツ葉は「★3」とメッセージを打っている。彼女は今の格好の情報を送る。

しなびたサラリーマン・関口が三ツ葉に話しかけてくる。

関　口「星3の子？」

三ツ葉「関口さん？」

関　口「そう。ねぇ、やっぱ星2で、どう」

三ツ葉「ダメ。3」

関　口「みてたよ。君、足悪いじゃん。安くしてよ。むしろ2で

(C) 2026映画「炎上」製作委員会

も多いと思うけど」

三ツ葉は突然大きな声を出す。

三ツ葉「は？　むしろレアだろ！　レアカードの方が高いに決まってんだろ。ポケカやったことない？」

三ツ葉は関口のメガネを奪い取る。関口は焦る。彼はすごく視力が低いのだろう。

関　口「え、あ、ちょっと、、、」

三ツ葉は大きな声で捲し立てる。

三ツ葉「私、変なこと言ってます？　傷ついたんですけど、もう4だと思いますけど、ねぇ、私変なこと言ってますか？」

関　口「うん、はい、はい、ごめんごめん」

メガネを取られて弱気になる関口。

三ツ葉「はい、交渉成立ー。じゃ、いこー。じゃーねーまた後で」

小林オフ「三ツ葉は、パパ活をしている。すぐ戻るねと言って、彼女はきもい男と消えた」

34

ラブホテル

(C) 2026映画「炎上」製作委員会

三ツ葉がメガネをとる。

×　×　×

三ツ葉と関口はセックスをしている。

次のシーンの三つ葉の手拍子に併せて、セックスをする二人の体と表情のクローズアップがインサートされる。

35

回転寿司屋／日中

三ツ葉「パン！　パン！　パパン！　パ！　パパン！　パ！　パン！　パン！　パン！　パン！　パパン！　パ！　パパン！　パ！　パ！　パン！」

三ツ葉は手拍子を強く叩く。

小林と三ツ葉は回転寿司を食べている。

三ツ葉「まぁ、手拍子15回分くらいの時間、好きな曲頭で爆音でかけてれば終わるから。それで星3はいいでしょ。コツは早漏を見定めることだね」

(C) 2026映画「炎上」製作委員会

三ツ葉は中トロの寿司を手にとり、パクッと食べる。

三ツ葉「やーシャバ寿司うめぇ～」

小林は黙っている。

三ツ葉「ん？　何？」

小林は聞きたいことがあるが、言い出せない。

三ツ葉「なんでこんなことそもそもやってるか？　みたいな？　ベタな質問だね～」

小林は頷く。

三ツ葉は寿司を2皿とる。いくらと、うに。三ツ葉はいくらを指差す。

三ツ葉「理由1、お金。コンビニで頭1時間下げて労働して1000円なのとかもう考えられない。早漏だったら10分で星3だよ」

三ツ葉はうにの寿司を指差す。

机には5万円が置いてある。

三ツ葉「理由2、愛。私の人生は親とか恋人からの愛とか、そういうものが皆無だったから、誰かに抱きしめられること

(C) 2026映画「炎上」製作委員会

なんてなくて。だから、死臭くさいおじでも、よれよれTシャツオタクでも、抱きしめられると、愛感じる」

三ツ葉「金と愛。かっこいいっしょ」

三ツ葉は笑う。そして、いくらと、うにを一気に食べる。

×　×　×

ラブホテルにて。関口が三ツ葉の耳元で交渉をしている。

関　口「ねぇ生でしてもいい？」

三ツ葉「いーよ。じゃあ星5ね」

セックスの後に、ベッドの上で関口は三ツ葉にささやく。三ツ葉は関口を抱きしめる。

関　口「大好き」

三ツ葉「大好き」

三ツ葉オフ「金と愛」

×　×　×

寿司屋のレジにて。9460円と表示されている。

(C) 2026映画「炎上」製作委員会

三ツ葉は現金で1万円払う。店員は笑顔で答える。

三ツ葉「お釣りはノーセンキュー」

店　員「ありがとございました～」

三ツ葉「ありがとございました～」

36

ペットショップ／日中

ペットショップでチワワをみている小林と三ツ葉。

ケージの中でチワワがうるうると目を潤ませている。

三ツ葉と小林は、歌いながら小さく踊る。

小林
三ツ葉「わん、つー、すりー、ふぉー」

T：ただただチワワを見る時間

小林
三ツ葉「♪ただただチワワを見る時間～♪ただただチワワを見る時間～♪ただただチワワを見る時間～♪ただただチワワを見る時間～♪」

三ツ葉は小林の方を向かずに言う。

(C) 2026映画「炎上」製作委員会

三ツ葉「ねえ一緒に稼ぐ？　うちら二人なら最強だと思うよ」

37

黒　み

T：第4章　ほし1000

38

イメージ／小林の家

凶暴そうなアフリカの蟻のイメージショット。

そこに、過去の父がベルトを持って虐待をしているシーンがインサートされる。そして、現在の母もまた、同様に虐待しているシーンがインサートされる。

小林オフ「ちょっとだけ、昔話をさせてほしい。パパが生きてた頃は、ママも暴力を振るわれてた。パパが死んでからは、ママが私たちに暴力を振るった。図鑑で読んだことがある。アフリカのアリは、王が死んだら、働き蟻の誰かが

(C) 2026映画「炎上」製作委員会

その役割を継ぐらしい。私たちはきっと蟻とおんなじだ」

×　　×　　×

小林が想像する現在の実家のイメージシーン。夜。

母が妹の背中を父の遺品のベルトで叩いている。

母「最悪！　ごめんなさいは⁉」

妹「ごめんなさい！」

母「最悪！　最悪！」

小林オフ「ごめんね。今頃あなたは、私の分も殴られているのだろう」

玄関を開けて部屋に入ってくる現在の小林。

小林は叩かれる妹に駆け寄り、手を握って、部屋から出ていく。

小林オフ「だから、ほし1000。1000万円貯めて、私はあなたを迎えにいく。二人で逃げよう」

寝室には、図鑑が置かれている。世界図鑑である。

小林オフ「そんで行ったことのない場所に二人で行こう。パリとか、ローマとか、エジプトとか、アフリカとか。図鑑で

(C) 2026映画「炎上」製作委員会

見た、いろんなとこに行こう」

39

トー横広場／日中

小林は三ツ葉にもらった一万円札をじっと見つめている。

小林オフ「神様じゃなくて、私が、あなたを救う。お金で救う。だから、ほし1000稼ぐ」

ブルーシートに寝っ転がって会話する小林と三ツ葉。

二人の目線の先には青空が広がっている。

三ツ葉「ほし1000かー。案外余裕。1日5回セックスしたら、三ヶ月あればたまるよ」

広場の横には巨大なビルが立っている。

小林はビルを指差して喋る。

三ツ葉「あのビルの上はさ、セレブのホテルになっててさ、一泊100万円の部屋があるらしいよ。どんな眺めなんだろーね？　そこから見たらうちらどう見えんのかな？」

(C) 2026映画「炎上」製作委員会

小　林「み、見えないんじゃない？　小さすぎて」
三ツ葉「あはは、確かに。じゅじゅ大好き」
　三ツ葉のスマホにＫＡＭＩから通知が来る。
三ツ葉「あ、ＫＡＭＩくんが、見つけてくれたって。おいで。いこうか。緊張しなくていいよ」
　三ツ葉は立ちあがり、小林に手を差し伸べる。

40　欠　番

41　ラブホテル

　ラブホテルのベッドに小清水が腰をかけて、バイブを手に持ち、豆知識を語っている。それを立っている三ツ葉と小林が聞いている。三ツ葉は服を脱ごうとしているところだ。
小清水「ねぇ、知ってる？　バイブってさ、特別なシリコンでできてるから、よく燃えるんだよ。ピンクのラメラメで燃

(C) 2026映画「炎上」製作委員会

えたら、可愛いと思わない？」

三ツ葉「あ～、私は大丈夫なんですけどぉ、このこ、処女なんで、ちょっとそういうの使わないでもいいですか？」

小清水、むしろ嬉しそうな反応をする。

小清水「え？　本当に処女なの？　そんなのこの街に存在するの？」

三ツ葉「するんですよぉ。ね？」

小林は、うなずく。

小清水「天然記念物すぎますね」

三ツ葉「やさしくお願いしますね」

×　　×　　×

ベッドの上にて。小清水も小林も着衣のままで性交渉をしようとしているところである。

小清水「挿れるね。いい？」

小　林「は、は、はい」

小清水は小林に挿入をして、動く。小林は苦痛に感じ、目を閉じる。

(C) 2026映画「炎上」製作委員会

目を閉じた小林の顔を、小清水のネクタイが触れ、行ったり来たりする。
小林は目を瞑ったまま、小さな声で三ツ葉に呼びかける。
小　林「みみみ三ツ葉ちゃん、い、いる？」
三ツ葉は近くにいて、小林の耳元に顔を近づけて囁く。
三ツ葉「いるよ。大丈夫だよ。ベートーヴェンのこと、考えな」
小林は天井の備え付けスピーカーを見る。現実では何も流れていないが、小林の空想ではベートーヴェンが流れる。

42

黒　み

小林オフ「頭の中で爆音で、いつか聞いたベートーヴェンがなっていた。汚れはこれで相殺できる。よかった」
黒い画面で、ベートーヴェンを30秒ほどただ聞く時

(C) 2026映画「炎上」製作委員会

間がある。
しかし、途中で音楽がばさっと切れて、闇の隙間から、まるで襖を開けたように父が現れる。
父　「堕落だ。お前は汚れた！」

43　ラブホテル

父の言葉に我にかえり、目を開けて過呼吸のように強く息を吸う小林。
小　林「ハァ！！！　ハァ、ハァ、ハァ、ハァ、ハァ、ハァ」
三ツ葉は小林に寄り添い、頭を撫でる。
三ツ葉「大丈夫だよ。大丈夫。大丈夫」
小清水はシャワーを浴びているのがガラス越しに見える。

44　ラブホテル／風呂場

(C) 2026映画「炎上」製作委員会

三ツ葉と小林はシャワーを浴びている。
シャワーを小林にかける三ツ葉。三ツ葉の脚には傷がある。
三ツ葉「はい、除霊しまーす」
小林はシャワーをかけられて目をつぶる。
三ツ葉はヘラヘラとして、深刻そうにしている小林を元気付ける。
三ツ葉「地獄だけどさ、すぐ慣れるから大丈夫だよ。まー大丈夫じゃなくてもさ、みんな大丈夫じゃないから、、、大丈夫だよ。ケホケホ」

45

ラブホテル

シャワーを浴びた三ツ葉と小林は出てくる。小清水はもういない。ベッドの枕元には置いていったバイブと5万円が置かれている。
三ツ葉「あいつバイブおいてってんじゃんキモ～」

(C) 2026映画「炎上」製作委員会

三ツ葉はそのうち2万円を小林に渡す。

三ツ葉「そうだ、ずっと処女ってことにしようよ。テク求められないし、値上げできるし。私天才じゃん。ぶい！　ケホケホ」

46

コインロッカー前／夜

小林は一万円札を見つめている。

彼女は、1万円札を丁寧に折り、渋沢栄一の顔だけにする。渋沢栄一の顔が二つできた。それを、コインロッカーに雑に入れる。

47

新宿／交差点／夜

小林と三ツ葉が信号を待っている。三ツ葉が信号の向かいにいるヒカリに気づき、青信号になると同時に彼の方に走り出す。小林はその勢いに圧倒されて、

(C) 2026映画「炎上」製作委員会

追いかけずに三ツ葉の行動を眺める。

三ツ葉「あ、ヒカリ！　会えた！　運命！」

三ツ葉はヒカリに抱きつく。

ヒカリ「出れたんだねー」

三ツ葉「うん。逃げたー。てか既読スルーやめてよ、凹む。次やったら店に凸しちゃうよー」

ヒカリ「うるせー、忙しいんだよ俺だって」

三ツ葉「ねー身の程わきまえて～～～」

三ツ葉は、いつもと違う、猫撫で声でヒカリと会話している。そのことに小林は驚く。

小林オフ「彼は三ツ葉の恋人、名前はヒカリ。性格は闇のくせにヒカリ」

ヒカリ「てか石鹸くさ」

三ツ葉「うん、仕事！」

ヒカリ「えらいえらい、えらいね」

三ツ葉「ほめて～～～」

ヒカリ「稼いで～」

(C) 2026映画「炎上」製作委員会

三ツ葉「稼ぐ～～～」

ヒカリは、三ツ葉の頭を撫でる。

48

回想／ホストクラブ

三ツ葉はヒカリに接客されている。

三ツ葉オフ「ヒカリは、かわいそうな子なのね。小さい時に自分の母親に犯されたんだって。だから、彼は肉体的な関係を拒絶してるのね」

49

カラオケ／夜

小林と三ツ葉が会話をしている。三ツ葉の声はマイクでエコーがかかっている。二人はカラオケ貸し出しのコスプレをしている。

三ツ葉「母親に呪いをかけられたってこと。いつか私が、いつか私が、彼の母親を殺して、呪いを解いてあげれたらなっ

(C) 2026映画「炎上」製作委員会

て、思ってる。で、ヒカリがナンバーワンホストで、私がプリンセスで」

×　×　×

三ツ葉はプリンセスドレスを着ていて、くるくるとお姫様のように回る。

それを小林はスマホで撮影する。

50

回想／ホストクラブ

ピンクの伝票に「４３８，１８０円」と書かれている。

ヒカリは伝票を手に取って、裏返し、ペンでメッセージを書く。

「いつか海の近くの一軒家で、チワワちゃん100匹と一緒に暮らそうね」

ヒカリはそれを三ツ葉に渡す。嬉しそうである。

三ツ葉オフ「でっかい家で、チワワ百匹飼って暮らそうって約束

(C) 2026映画「炎上」製作委員会

してるんだ。これ、私のピンクのラブレター」

51

カラオケ／夜

三ツ葉からピンクの伝票を見せてもらう小林。
三ツ葉はそれを小林から奪い取って、ポーチにしまう。
三ツ葉「はい終わり～！　返して～～～！」

52

ホストクラブ／インタビュー

ヒカリ「リアコ、わかります？　リアル恋。リアコに落としたら勝ちなんですよ」
ヒカリは罪悪感を示すが、悪びれていない態度で話し続ける。
ヒカリ「罪悪感？　そりゃありますよ。でも自分が生きるためには、それやんなきゃなんないんで。親の借金バチクソあ

(C) 2026映画「炎上」製作委員会

って。で親首吊って死んじゃって。だからやらないとダメなんですよ。自分も、、、、、被害者なんで」

53　トー横広場／夜

トー横広場で宴をするメンバーたち。小林、三ツ葉、ＫＡＭＩ、その他メンバーたちもみんないる。盛り上がっている。

トー横広場に帰ってきてからここまで、小林にとって、長い1日であった。

54　黒　み

Ｔ：第５章　５１０００ｇ

55　ラブホテル

(C) 2026映画「炎上」製作委員会

ベッドの上にバスローブを着た小林と三ツ葉がいる。
二人はパーをして、5を示す。
三ツ葉「ほし5～」
ドアの前には男が立っている。
小林オフ「それから私たちは三ヶ月で548人とやった。548人が私の処女を奪った」
何人もの男たちが、三ヶ月間で、この部屋にやってきたのだ。
×　×　×
小林と三ツ葉が一人の男と3Pをしている。
小林は天井のスピーカーを見つめてやり過ごしている。
スピーカーからはベートーヴェンが流れている。
三つ葉が、あの時、小清水が置いて行ったバイブをくるくると回す。
小林オフ「我ながら自分で自分を褒めたい。あと少しだ」

(C) 2026映画「炎上」製作委員会

56　ラブホテル／風呂場

小林は湯船に入っている。三ツ葉は小林にシャワーを浴びせる。二人で戯れ合う時間は楽しそうである。

三ツ葉「除霊！」

小　林「やめてよ～！」

三ツ葉「除霊！」

小　林「やめてよ～！」

57　コインロッカー前／日中

小林は、たくさん一万円札を折る。（何日か分の撮影素材）

小林はロッカーの鍵を閉める。

コインロッカーの前で座り込む小林。小林はスマホを取り出して、何かを打ち込む。スマホの画面に、名前が羅列されていて、そこに先ほどやった男の名

(C) 2026映画「炎上」製作委員会

前と特徴を打ち込む小林。
そこに白いワゴン車が止まる。運転席には阿Qが座っている。
車からはKAMIが現れて、小林のスマホを勝手に奪って見る。
KAMI「やったやつの名前？　そんなの忘れた方がいいよ」
小林の首からかけていたスマホストラップが引っかかり、首輪のように引っ張られてしまう小林。
小　林「か、か、返してください」
KAMI「はいはい。でもがんばってるね。偉いね」
KAMIは小林の頭に手を乗せる。KAMIは小林に笑いかける。
KAMI「あ、そーだ。阿Qがお前のこと好きって言ってたぞ。付き合ってあげてー」

58

多目的トイレ／日中

(C) 2026映画「炎上」製作委員会

小林とリス、Ｏｒａ、ハクがトイレで過ごしている。
リスはメイクを鏡に向かって直している。
Ｏｒａは歯磨きをしている。ハクはトイレをしている。

リス「え？　阿Ｑ？　きもっ」
小林「は、初めて人に、好きとか言われた」
Ｏｒａ「えー？　私たちもずっと言ってるじゃん、好きって」
リス「てか、最近顔色悪いよじゅじゅ」
Ｏｒａ「うん、やばい、おばけすぎ」
ハク「おばけすぎ～」
リス「メイクしたげよっか。これなら超ヘビー級地雷系いける」
　リスは小林にメイクをし始める。
リス「三ツ葉とつるむのやめなよ。取り分ちゃんと話せてる？
　あいつ嘘つきだから。足悪いのも嘘説あるんだよ」
Ｏｒａ「私もフツーに歩いてるとこ見た」
ハク「やば」
　みんな悪気なく笑っている。

(C) 2026映画「炎上」製作委員会

化粧をされている小林は顔を曇らせる。
ハクはおしっこが終わり出ていく。
Ｏｒａは歯磨きを終えて出ていく。

Ｏｒａ「おい、手え洗え」
ハ　ク「あらわんよー」

×　　×　　×

小林の化粧がもうすぐ完成する。トイレには二人きりである。

リ　ス「じゅじゅ、マジで元気なかったらこれ売ったげるよ。いる？　じゅじゅなら安くしとく」
リスはポケットからタブレットのケースを手書きで書き換えたものを洗面台に置く。
小　林「え、、？」
リスはそこから星型の錠剤を出す。
リ　ス「かわいいでしょ。最近ＫＡＭＩくんにこれ売るバイト紹介してもらったんだ。生活超安定してるー。超ハッピー。リスカ増えてないんだ。あだ名変えなきゃかなー」

(C) 2026映画「炎上」製作委員会

リスは屈託なく笑う。

リ　ス「はい、かんせ～い」

小林オフ「それからたった、2時間後のこと」

映画『炎上』は4月10日（金）公開
物語の続きは劇場でお楽しみください。

(C) 2026映画「炎上」製作委員会